

ADVANCED GUIDE

発展課題ガイド

提案骨子ジェネレータ / 早く終わった方と復習用

2026年8月26日（水） / ギークス株式会社様向け / 株式会社ギブリー

目次

5つのステップを、上から順に進めます

ステップ1 完成イメージをつかむ	[10min]
ステップ2 Geminiで壁打ちする	[20min]
ステップ3 実装プロンプトを作る	[15min]
ステップ4 Canvasで作って直す	[25min]
ステップ5 Antigravityで続きを作る	[30min]

各ステップは 目的／操作／自分で考える／ここまで来たらOK／発展課題 の順に並んでいます。

いつ取り組むか

本編のハンズオンで、Antigravityでの機能追加まで終わってから開いてください。

研修時間内に本編より先にこちらへ入ると、Antigravityの実行枠を先に使ってしまい、本編の修正や機能追加ができなくなる場合があります。

後日の復習用としても、そのまま使えます。当日に終わらなかった場合は、持ち帰って続きから再開してください。

ステップ4までがGeminiだけで進む範囲です。Antigravityを使うのはステップ5からです。

ステップ4まで進めば、この課題の狙いは達成できます。

はじめに 本編との違い

配られたものを貼る本編に対して、ここは自分で決めます

	本編 議事録オーガナイザー	発展課題 提案骨子ジェネレータ
プロンプト	配布されたものをそのまま貼る	壁打ちして自分で組み立てる
処理の主な役	3分類への仕分けとBPMN図の描画	足りていない情報の検出と概算の計算
作る場所	Geminiで生成してAntigravityで直す	GeminiのCanvasで作ってAntigravityへ移す
出てくる答え	拾えたものが並ぶ	拾えなかったものが残る

書式は題材が変わっても使えます。ここが持ち帰る資産です。

ステップ1

ステップ1 完成イメージをつかむ

[10min]

目的

これから何を作るのかを、言葉ではなく動くもので理解します。完成形を先に触っておくと、ステップ2の壁打ちで「こうしたい」が出てきます。

自分で考える

3本を貼り比べて、次の2つを考えてください。答えは書いていません。

03 で概算が出ないのは、なぜそうしてあるのでしょうか。期間だけは書いてあるので、体制を仮に置けば金額は出せます。それでも出さない理由を考えてみてください。

ステップ1

ステップ1 の操作 (1/2)

- 1 answer/proposal-builder.html をダブルクリックして、ブラウザで開きます。
- 2 docs/ヒアリングメモ_01_製造業.md をテキストエディタで開き、全部を選択してコピーします。
- 3 アプリの入力欄に貼り付けて、「骨子を作る」を押します。
- 4 課題・提案・体制・概算の4ブロックが並ぶことを確認します。
- 5 続けて docs/ヒアリングメモ_03_情シス_抜けあり.md を貼って、もう一度押します。
- 6 体制と概算が「未取得」になり、下に聞くなりべきことが出ることを確認します。

ステップ1

ステップ1 の操作 (2/2)

- 7 docs/ヒアリングメモ_02_小売.txt も貼って、02がどう出るかを見ます。

ステップ1

ステップ1 の完了条件（1/2）

生成物

このステップでは作りません。02で気づいたことのメモだけ、手元に残してください。

ここまで来たらOK

3本すべてを貼って、それぞれ違う結果になることを見た

「未取得」のブロックに、聞くべきことが質問の形で出るのを見た

ネットワークを切っても動くことを確認した（機内モード、または Wi-Fi オフ）

もう一步

answer/proposal-builder.html をテキストエディタで開いて、fetch と XMLHttpRequest を検索してみてください。0件です。このアプリが外にデータを送っていないことは、こうやって確認できます。客先で「データはどこへ行くんですか」と聞かれたときに、この確認方法がそのまま答えになります。

ステップ1

ステップ1 の完了条件 (2/2)

発展課題

docs/提案骨子の書き方.md を読んでから、もう一度3本を貼り直してください。このアプリが拾えていない情報が見えてきます。見つけたら1つメモしておいてください。ステップ5で自分で足す候補になります。

ステップ2

ステップ2 Geminiで壁打ちする

[20min]

目的

いきなり作らせずに、仕様を自分で決めます。ここがこの発展課題の中心です。本編では配られたプロンプトを貼りましたが、ここでは貼るものを自分で用意します。

ステップ2

ステップ2 で考えること

自分で考える

Gemini は、こちらが答えやすい質問から聞いてきます。ただ、聞かれなかったことの中に大事な点が残っていることがあります。

prompts/01_壁打ちの型.md の「決めておきたい5点」の表と、実際に聞かれたことを突き合わせてください。聞かれなかった項目があれば、こちらから投げてください。「期間が幅で書かれていた場合はどう扱いますか」のように。

ステップ2 の操作

- 1 Gemini ブラウザ版を開き、新しい会話を始めます。本編の会話の続きにしないでください。前の文脈が混ざります。
- 2 prompts/01_壁打ちの型.md を開き、角括弧を自分の言葉に置き換えて、まるごと貼って送ります。
- 3 Gemini が質問を返してきます。1問ずつ答えてください。まとめて答えると、決めたつもりの穴が残ります。
- 4 答えるときは、docs/ の3本を見ながら答えてください。「一般的にはどうか」ではなく「このメモならこう」で決めます。
- 5 決まったことを output/壁打ちメモ.md に箇条書きで書き出します。会話のログは要りません。決めた内容だけです。

ステップ2

ステップ2 の完了条件（1/2）

生成物

output/壁打ちメモ.md

書く内容は、決めたことです。次の形で足ります。

、

ここまで来たらOK

Gemini からの質問に、5問すべて答えた

output/壁打ちメモ.md に、決めたことが箇条書きで残っている

次の3つを自分の言葉で言える。4ブロックをどう拾うか／拾えなかったとき何を出すか／概算をどう計算するか

ステップ2

ステップ2 の完了条件（2/2）

もう一步

決めたことを Gemini に読み返させて、矛盾を指摘させてください。

、

ここまでで決めたことを、箇条書きで整理し直してください。

発展課題

同じ壁打ちを、別の題材でやってみてください。自分が普段いちばん手間だと感じている作業を1つ選んで、同じ型を投げます。型が題材に依存していないことが分かります。これが持ち帰る資産です。

ステップ3

ステップ3 実装プロンプトを作る

[15min]

目的

壁打ちで決めたことを、AI が実装できる形の文章に並べ替えます。決めたことと、それを伝える文章は別物です。

自分で考える

キーワードは想像で並べないでください。 docs/ の3本を実際に読んで、課題が書かれている段落に共通して出てくる言葉を探します。

たとえば「困って」は3本すべてに出てきますが、「課題」という単語は01にしか出てきません。単語の見た目ではなく、実際の出現で選びます。ここを手を抜くと、ステップ4で「拾えない」が続きます。

ステップ3

ステップ3 の操作

- 1 prompts/02_実装プロンプトの型.md を開きます。
- 2 骨格をコピーして、output/実装プロンプト.md として保存します。
- 3 角括弧の中を、output/壁打ちメモ.md の内容で埋めます。
- 4 「データの扱い」の節に、判定に使うキーワードを全部書き出します。ここがいちばん長くなります。
- 5 「概算の計算」の節に、docs/単価テーブル.csv の値を書き写します。表のまま貼って構いません。
- 6 埋め終わったら、上から読み返して、曖昧な表現が残っていないか確認します。

ステップ3

ステップ3 の完了条件（1/2）

生成物

output/実装プロンプト.md

ここまで来たらOK

- 骨格の6つの節（何を作るか／守る制約／画面構成／データの扱い/概算の計算／出力形式）がすべて埋まっている
- 判定キーワードが、docs/ の3本を読んで選んだものになっている
- 「見やすく」「適切に」「いい感じに」といった言葉が1つも残っていない

もう一歩

- 書き上げたプロンプトを、Gemini に読ませるだけにして、こう聞いてください。
- 、
- このプロンプトを読んで、実装するときに迷いそうな点を5つ挙げてください。

ステップ3

ステップ3 の完了条件（2/2）

発展課題

本編で配布された 0826_handson/prompts/01_生成プロンプト.md と、自分が書いたものを見比べてください。節の並びが同じであることが分かります。中身は違っても骨格は同じです。この骨格が、別の題材でもそのまま使えます。

ステップ4

ステップ4 Canvasで作って直す

[25min]

目的

自分で書いたプロンプトで、実際に動くものを作ります。ここまで進めば、この課題の狙いは達成できます。
ステップ5は、時間が余った方と、後日の復習用です。

自分で考える

「どこが違うか」を言葉にする練習です。出てきたものが想定と違ったとき、次の順で考えてください。

output/壁打ちメモ.md を開いて、そこに書いてあるか確認する

ステップ4

ステップ4 の操作 (1/2)

- 1 Gemini ブラウザ版で、新しい会話を始めます。壁打ちの会話とは分けてください。
- 2 output/実装プロンプト.md を全部コピーして、貼って送ります。
- 3 生成が始まったら、Canvas で開きます。右側のパネルに成果物が表示され、そのまま直せる状態になります。
- 4 表示されたアプリに docs/ヒアリングメモ_01_製造業.md を貼って、動きを確認します。
- 5 直したい点が出たら、prompts/03_Canvas修正の型.md の3点セットで書いて送ります。1回に1つだけです。
- 6 直ったら、3本のメモそれぞれで確認します。01で直っても、03で壊れていることがあります。

ステップ4

ステップ4 の操作 (2/2)

- 7 通ったら、output/proposal-builder.html として保存します。

ステップ4

ステップ4 の完了条件（1/2）

生成物

output/proposal-builder.html

ここまで来たらOK

ヒアリングメモ_01_製造業.md を貼ると、4ブロックすべてに内容が入る

ヒアリングメモ_03_情シス_抜けあり.md を貼ると、体制と概算が「未取得」になり、聞くべきことが出る

ネットワークを切っても動く

もう一歩

answer/proposal-builder.html と、自分が作ったものを並べて開いてください。同じ入力で結果が違うところを探します。

違いが出るのは、たいてい判定キーワードです。どちらが正しいということはありません。見本の拾い方が自分の営業スタイルに合っていないければ、自分のほうが正しいです。

ステップ4

ステップ4 の完了条件 (2/2)

発展課題

docs/ヒアリングメモ_02_小売.txt は、体制が「何人くらい要るものなんですか」と逆に聞かれた状態で終わっています。この場合に何を出すのが正しいかを考えて、その動きになるよう直してください。

未取得として扱うのか、それとも「先方から人数を尋ねられている」という状態を別に表示するのか。仕様として決めるべき点です。

ステップ5

ステップ5 Antigravityで続きを作る

[30min]

目的

Canvas で作ったものを IDE へ移し、仕様に書いていない機能を自分で決めて足します。ブラウザの中だけで完結していた作業が、手元のファイルを直す作業に変わります。

Antigravity の実行枠を使います。本編の機能追加が終わっていない方は、先に本編を終わらせてください。

ステップ5

ステップ5 で考えること

自分で考える

7番が本番です。何を足すかを決めるとき、docs/ のメモ3本をもう一度読んでください。

考える順番は「このメモを貼ったあと、営業として次に何をするか」です。次の行動に一番近いものが、足すべき機能です。次回のヒアリング項目を印刷して持っていくなら、コピーのボタンが要ります。上司に見せるなら、Markdown での出力が要ります。

ステップ5

ステップ5 の操作 (1/2)

- 1 output/proposal-builder.html が保存されていることを確認します。
- 2 バックアップを取ります。同じフォルダに proposal-builder_bk.html という名前でコピーしてください。
- 3 Antigravity を起動し、Open Folder で 0826_hatten フォルダごと開きます。ファイル1個ではありません。
- 4 モデル選択のドロップダウンで Gemini 3.5 Flash (Low) を選びます。チャット入力欄のすぐ下です。
- 5 prompts/04_Antigravity継続の型.md の「最初に1回だけ送る」を貼って、返事が返ることを確認します。
- 6 壁打ちで決めたのに Canvas で入れきれなかったものを、1つずつ足します。

ステップ5

ステップ5 の操作 (2/2)

- 7 仕様に書いていない機能を、自分で決めて1つ足します。

ステップ5

ステップ5 の完了条件（1/2）

生成物

- output/proposal-builder.html … 機能が増えた状態
- output/proposal-builder_bk.html … 直す前のバックアップ

ここまで来たらOK

- Antigravity から自分のファイルが見えていて、指示に返事が返る
- 機能を1つ足して、ブラウザで動作を確認した
- 足した機能が、docs/ の3本すべてで壊れていない

ステップ5

ステップ5 の完了条件（2/2）

もう一歩

足した機能について、output/壁打ちメモ.md の末尾に3行だけ書き残してください。

、

足した機能:

発展課題

このアプリを、AI に投げる版へ発展させるとしたら何が必要になるかを考えてください。

判定をキーワードから AI の解釈に変えると、拾える精度は上がります。その代わり、API キーをどこに置くか、ヒアリングメモのどこまでを送ってよいかという判断が増えます。docs/AI入力可否ルール.md の線引きが、そのまま効いてきます。

実装まで進める必要はありません。「何を決めないと進められないか」を3つ挙げられれば十分です。客先でこの話になったときに、そのまま使えます。



株式会社ギブリー ／ 生成AIエバンジェリスト育成研修 Day3 発展課題